

第2次地域福祉計画・地域福祉活動計画の令和3年度の実績について

基本目標		基本的な考え方			担当課																										
1 地域の支え合いの仕組みづくり		1 多様な主体による地域福祉活動の推進			社会福祉協議会、市総務監査課、市高齢福祉課																										
重点取組	指標名	現状値 (H31.3月末)	目標値	R3年度実績値	R3年度取組内容																										
ボランティア活動の促進	社協ボランティアセンター登録者数	【団体】 482グループ (18,713人) 【個人】 310人	➔	【団体】 503グループ (24,825人) 【個人】 276人	担当：社会福祉協議会 【ボランティアセンターの機能強化に関する取組】 ① ボランティア相談及び活動調整 ・ボランティア活動者：288件、ボランティア依頼者：294件 ② ボランティア登録及び活動支援 <table border="1"> <tr> <td>ボランティア登録</td> <td>個人：276人 グループ：503グループ(24,825人)</td> </tr> <tr> <td>ボランティア活動保険手続き代行</td> <td>活動保険：11,031人 行幸用保険：182件</td> </tr> <tr> <td>ボランティア活動表彰</td> <td>35団体</td> </tr> <tr> <td>ボランティアグループ活動助成</td> <td>34グループ 527,822円</td> </tr> <tr> <td>子どもの支援に関する活動助成</td> <td>11グループ 955,756円</td> </tr> </table> ③ ボランティア情報の提供、啓発、育成、養成 <table border="1"> <tr> <td>ボラメ情報発信</td> <td>5件(登録285人)</td> </tr> <tr> <td>ぼらんていあだより発行</td> <td>年12回 96,000部</td> </tr> <tr> <td>ぼらんていあだよりメール配信</td> <td>個人：148人 グループ：80グループ</td> </tr> <tr> <td>ボランティア活動紹介冊子</td> <td>・市民のためのボランティアインフォメーション ・登録ボランティアグループ一覧表 ・収集ボランティア一覧表 ・とよたの子ども食堂</td> </tr> <tr> <td>出前講座「今日からあなたもボランティア」</td> <td>21回(参加者907人)</td> </tr> <tr> <td>ボランティア講座実施(本所)</td> <td>講座修了者：18人 市民公開講座参加者：57人 全4回(9/4※、9/25、10/1～11/30のうち1日、12/18) ※講座初日は市民公開講座として実施</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーションUP講座(旭支所)</td> <td>講座参加者：13人 1/12 ※講座2回目はまん延防止等重点措置発令のため中止。</td> </tr> <tr> <td>傾聴ボランティア養成講座(足助支所)</td> <td>全2回(9/30、10/7) 参加者：延べ10人</td> </tr> </table>	ボランティア登録	個人：276人 グループ：503グループ(24,825人)	ボランティア活動保険手続き代行	活動保険：11,031人 行幸用保険：182件	ボランティア活動表彰	35団体	ボランティアグループ活動助成	34グループ 527,822円	子どもの支援に関する活動助成	11グループ 955,756円	ボラメ情報発信	5件(登録285人)	ぼらんていあだより発行	年12回 96,000部	ぼらんていあだよりメール配信	個人：148人 グループ：80グループ	ボランティア活動紹介冊子	・市民のためのボランティアインフォメーション ・登録ボランティアグループ一覧表 ・収集ボランティア一覧表 ・とよたの子ども食堂	出前講座「今日からあなたもボランティア」	21回(参加者907人)	ボランティア講座実施(本所)	講座修了者：18人 市民公開講座参加者：57人 全4回(9/4※、9/25、10/1～11/30のうち1日、12/18) ※講座初日は市民公開講座として実施	コミュニケーションUP講座(旭支所)	講座参加者：13人 1/12 ※講座2回目はまん延防止等重点措置発令のため中止。	傾聴ボランティア養成講座(足助支所)	全2回(9/30、10/7) 参加者：延べ10人
ボランティア登録	個人：276人 グループ：503グループ(24,825人)																														
ボランティア活動保険手続き代行	活動保険：11,031人 行幸用保険：182件																														
ボランティア活動表彰	35団体																														
ボランティアグループ活動助成	34グループ 527,822円																														
子どもの支援に関する活動助成	11グループ 955,756円																														
ボラメ情報発信	5件(登録285人)																														
ぼらんていあだより発行	年12回 96,000部																														
ぼらんていあだよりメール配信	個人：148人 グループ：80グループ																														
ボランティア活動紹介冊子	・市民のためのボランティアインフォメーション ・登録ボランティアグループ一覧表 ・収集ボランティア一覧表 ・とよたの子ども食堂																														
出前講座「今日からあなたもボランティア」	21回(参加者907人)																														
ボランティア講座実施(本所)	講座修了者：18人 市民公開講座参加者：57人 全4回(9/4※、9/25、10/1～11/30のうち1日、12/18) ※講座初日は市民公開講座として実施																														
コミュニケーションUP講座(旭支所)	講座参加者：13人 1/12 ※講座2回目はまん延防止等重点措置発令のため中止。																														
傾聴ボランティア養成講座(足助支所)	全2回(9/30、10/7) 参加者：延べ10人																														
評価																															
順調																															
考察																															
<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大の影響でボランティア活動にも制限があり、令和2年度は登録数が減ったが、ボランティア講座や体験会の実施など裾野拡大の取組を行い、令和3年度は登録数が増加している。 ボランティア講座受講者に対し終了後に実施したアンケートでは、18名中12名から個別支援に協力できるとの回答があり、多様化・複雑化する個別ニーズに対応できるボランティア育成にもつながった。 その他、近年増加している子ども食堂に対する理解増進や団体立上げの時の参考としてもらうため、「とよたの子ども食堂」冊子を作成し、市民への情報発信に取り組んだ。 																															
【ボランティア登録数】																															
		令和3年度		令和2年度																											
個人登録		276人		239人																											
グループ登録		503グループ°(24,825人)		496グループ°(16,033人)																											

第2次地域福祉計画・地域福祉活動計画の実績について

特筆すべき事項（特徴的な事例など）	R3 年度取組内容（続き）															
<p>社会福祉協議会ボランティアセンター事例</p> <p>○ 事例①「ボランティア講座受講後、全盲男性のマラソン伴走ボランティアにつながった事例」</p> <p>【対象】 走ることが好きな上郷地区にお住いの全盲男性 A さん</p> <p>【相談内容と経過】</p> <ul style="list-style-type: none"> 過去にとよたマラソンにも出場したことがある A さんは、仕事が休みの日にトレーナーと共に練習を続けていた。さらなるレベルアップのため、大会のときや普段の練習で伴走してくれるボランティアを探していた。 令和 3 年度に社協ボランティアセンターが実施したボランティア講座にてボランティアの魅力や、活動におけるヒントを学ばれた B さんは、講座終了後のアンケートにて個別支援に関するボランティアに参加する意向を示された。 その後、自身もランニングを趣味としている B さんに伴走ボランティアについて打診したところ、ぜひやってみたいとの返答があった。 A さんと B さんの日程を調整し、顔合わせを実施。現在 A さんは、B さんに伴走をしてもらいながら、月に 1 度のペースで練習に励んでいる。  <p style="text-align: center;">ボランティア講座の様子</p> <p>○ 事例②「ぼらんていあだよりで結びついた通学見守りボランティア」</p> <ul style="list-style-type: none"> 【対象】令和 4 年 4 月から小学校に入学するダウン症をかかえた C くん <p>【相談内容と経過】</p> <ul style="list-style-type: none"> これから小学校に通うにあたって、通学団の他の子ども達から C くんは歩くペースが遅れてしまうことを心配したお母さんから、集合場所から学校まで一緒に歩いてくれるボランティアはいないか相談が入った。 地域学校共働本部や学生ボランティアグループに声掛けをしたが、平日の早朝ということでなかなかボランティアが見つからなかった。 ボランティアだよりに通学の見守りボランティア募集の記事を掲載したところ、それを見た 2 名の方から問い合わせがあった。 お母さんが自身で探されたボランティアとともに、問合せいただいた 2 名が交代で活動することになった。  <p style="text-align: center;">ぼらんていあだより R4.1 号</p>	<p>地域に密着したボランティアの育成（稲武支所）</p> <p>11/4 講演「健康で幸福であるために」 参加者：住民 22 人 2/18 課題事例の検討 「実情に合わせたボランティア活動」 参加者：ボランティア 11 人</p> <p>まちづくり活動に関わるボランティアの育成（小原支所）</p> <p>11/6 まちづくりリーダーサミット 参加者：80 人（うち小中学生 15 人） ※サミット後チラシを地域企業等へ配布、4 人が地域活動へ参加</p> <p>みまもりささえあい講演会（下山支所）</p> <p>3/12 参加者：35 人</p> <p>傾聴ボランティア養成講座（藤岡支所）</p> <p>全 3 回（養成講座：8/5、9/17 フォロアアップ研修：3/24）参加者：延べ 14 人</p> <p>④ ボランティア団体、関係機関とのネットワーク構築</p> <table border="1" data-bbox="1780 850 2807 1312"> <tr> <td>ボランティア情報交換会</td> <td>11 地区、延べ 227 人参加</td> </tr> <tr> <td>お助け隊ネットワーク情報交換会</td> <td>7/21 8 団体・12 人 2/25 12 団体・18 人</td> </tr> <tr> <td>子ども食堂ネットワーク交流会</td> <td>5/14 20 団体・20 人 10/5 18 団体・19 人</td> </tr> <tr> <td>子どもの支援ネットワーク交流会</td> <td>1/19 18 団体・25 人</td> </tr> <tr> <td>ボランティア連絡協議会役員会への出席</td> <td>年 11 回</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">中間支援組織連携に向けてのコア会議</td> <td>6/17 15 団体</td> </tr> <tr> <td>8/19 15 団体</td> </tr> <tr> <td>12/16 17 団体</td> </tr> <tr> <td>2/17 15 団体</td> </tr> </table>	ボランティア情報交換会	11 地区、延べ 227 人参加	お助け隊ネットワーク情報交換会	7/21 8 団体・12 人 2/25 12 団体・18 人	子ども食堂ネットワーク交流会	5/14 20 団体・20 人 10/5 18 団体・19 人	子どもの支援ネットワーク交流会	1/19 18 団体・25 人	ボランティア連絡協議会役員会への出席	年 11 回	中間支援組織連携に向けてのコア会議	6/17 15 団体	8/19 15 団体	12/16 17 団体	2/17 15 団体
ボランティア情報交換会	11 地区、延べ 227 人参加															
お助け隊ネットワーク情報交換会	7/21 8 団体・12 人 2/25 12 団体・18 人															
子ども食堂ネットワーク交流会	5/14 20 団体・20 人 10/5 18 団体・19 人															
子どもの支援ネットワーク交流会	1/19 18 団体・25 人															
ボランティア連絡協議会役員会への出席	年 11 回															
中間支援組織連携に向けてのコア会議	6/17 15 団体															
	8/19 15 団体															
	12/16 17 団体															
	2/17 15 団体															
<p>○ 事例③「ボランティア情報交換会を通してボランティア体験につながった事例」</p> <p>【相談内容と経過】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 2 年度の「高橋・松平地区ボランティア情報交換会」にて、「他の団体を見学・参加させてもらい、良いところを自身の活動に取り入れたい」という意見が多くあった。それを受けて、令和 3 年度は「ボランティア体験会」を企画し、体験先のコーディネートをした。 また、ボランティアセンター運営委員からの提案により、高橋地区内にある豊田東高校の生徒へ参加を呼びかけることにした。 ボランティア団体活動者 5 名、豊田東高校の生徒 10 名が参加、受入れ団体は延べ 6 団体であった。ボランティア体験会修了後も、数名の生徒が令和 4 年度のボランティア個人登録を行い、受け入れ先で継続的に活動をしている。 令和 4 年度も引き続きボランティア登録者、高校生を対象としたボランティア体験会を開催し、体験者や受入先団体の拡大を図る。  <p style="text-align: center;">ボランティア体験会の様子</p>	<p>⑤ 災害ボランティア事業</p> <table border="1" data-bbox="1780 1354 2807 1575"> <tr> <td>災害ボランティアコーディネーター養成講座開催</td> <td>7/31、8/22、11/28 申込者数：83 人 修了者数：63 人</td> </tr> <tr> <td>災害ボランティアコーディネーターフォローアップ研修会の開催</td> <td>12/12 参加者数：60 人 2/26 参加者数：39 人</td> </tr> <tr> <td>災害復興支援ボランティアネットワーク会議</td> <td>12/23 18 団体</td> </tr> </table> <p>担当：市総務監査課、市高齢福祉課</p> <p>【その他の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内社会福祉法人の公益的な取組の事例を整理し、市ホームページにて公開 市内事業者に対してささえあいネット高齢者見守りホットラインへの登録勧奨（R3 年度末：2,366 件） 実態調査の結果を受けて、チェーン店への訪問方法の変更、要綱改正を実施 	災害ボランティアコーディネーター養成講座開催	7/31、8/22、11/28 申込者数：83 人 修了者数：63 人	災害ボランティアコーディネーターフォローアップ研修会の開催	12/12 参加者数：60 人 2/26 参加者数：39 人	災害復興支援ボランティアネットワーク会議	12/23 18 団体									
災害ボランティアコーディネーター養成講座開催	7/31、8/22、11/28 申込者数：83 人 修了者数：63 人															
災害ボランティアコーディネーターフォローアップ研修会の開催	12/12 参加者数：60 人 2/26 参加者数：39 人															
災害復興支援ボランティアネットワーク会議	12/23 18 団体															

第2次地域福祉計画・地域福祉活動計画の実績について

R4 年度取組内容

担当：社会福祉協議会

① ボランティア相談及び活動調整

- ・ボランティアの相談、調整（強化）
- ・ボランティア活動の促進
- ・子ども食堂、学習支援等子どもを対象とした活動の相談支援

② ボランティア登録及び活動支援

- ・ボランティア登録促進
- ・ボランティア保険の加入手続き
- ・ボランティア活動助成、表彰
- ・子ども食堂、学習支援等子どもを対象とした活動の助成
- ・ボランティア団体の支援
- ・新規活動の立ち上げの相談調整、支援
- ・地域に密着したボランティアの活動支援（稲武支所）
- ・企業・団体の社会貢献活動支援（下山支所）

③ ボランティア情報の提供、啓発、育成、養成

- ・ボランティア講座の実施（拡充）
- ・ボランティア講演会の開催（拡充）
- ・ぼらんていあだより、ボランティアセンターホームページ、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）、活動紹介冊子による情報発信
- ・出前講座（ボランティア講話）の実施
- ・つなげる力を持ったボランティアの育成～耳ではなく心で聴こう～（旭支所）
- ・傾聴ボランティア講座と交流会の開催（足助支所）
- ・まちづくり活動に関わるボランティアの育成（小原支所）
- ・自治区におけるお助け隊の創設（下山支所）
- ・傾聴ボランティア講座の開催とフォローアップの実施（藤岡支所）

④ ボランティア団体、関係機関とのネットワーク構築

- ・ボランティア情報交換会の開催
- ・お助け隊ネットワーク会議の開催
- ・豊田市子どもの支援ネットワーク交流会の開催
- ・豊田市社会福祉協議会子ども基金の活用
- ・豊田市ボランティア連絡協議会との連携
- ・とよた市民活動センター、企業、団体等との連携

⑤ 災害ボランティア事業

- ・災害ボランティア支援センター立上訓練 の開催
- ・災害ボランティアコーディネーター養成講座の開催
- ・災害ボランティアコーディネーターフォローアップ研修の開催
- ・災害復興支援ボランティアネットワーク加盟団体との連携

担当：市高齢福祉課

- ・ささえあいネット高齢者見守りほっとラインへの登録勧奨、協力機関と連携した高齢者支援に関する研修等の開催


第2次地域福祉計画・地域福祉活動計画の実績について

基本目標		基本的な考え方			担当課																																				
1 地域の支え合いの仕組みづくり		2 包括的な相談支援体制の充実			市福祉総合相談課、市地域支援課、市支所地域振興担当、社会福祉協議会																																				
重点取組	指標名	現状値 (H31.3月未)	目標値	R3年度実績値	R3年度取組内容																																				
総合相談体制の整備	総合相談窓口相談件数	<ul style="list-style-type: none"> 実数 573 件 延べ件数 1,871 件 	➡	<ul style="list-style-type: none"> 福祉総合相談課 (支所含む) 実数 1,271 件 社会福祉協議会 実数 3,670 件 延べ件数 18,288 件 <p><内訳></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>実数</th> <th>延べ件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>福祉センター</td><td>275</td><td>769</td></tr> <tr><td>上郷</td><td>248</td><td>886</td></tr> <tr><td>猿投</td><td>378</td><td>950</td></tr> <tr><td>高岡</td><td>413</td><td>1,438</td></tr> <tr><td>高橋・松平</td><td>430</td><td>1,279</td></tr> <tr><td>旭</td><td>307</td><td>1,731</td></tr> <tr><td>足助</td><td>433</td><td>3,040</td></tr> <tr><td>稲武</td><td>316</td><td>1,884</td></tr> <tr><td>小原</td><td>151</td><td>2,108</td></tr> <tr><td>下山</td><td>292</td><td>1,782</td></tr> <tr><td>藤岡</td><td>427</td><td>2,421</td></tr> </tbody> </table>		実数	延べ件数	福祉センター	275	769	上郷	248	886	猿投	378	950	高岡	413	1,438	高橋・松平	430	1,279	旭	307	1,731	足助	433	3,040	稲武	316	1,884	小原	151	2,108	下山	292	1,782	藤岡	427	2,421	<p>担当：市福祉総合相談課、市支所地域振興担当</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉総合相談課、市内支所でタブレット機器の運用【4月～】 情報戦略課と協力し、民間企業との共同研究による AI 相談システムの導入【8月～】 各種協議体・情報交換会等の開催、参加 子ども食堂、お助け隊等の団体支援 <p>担当：社会福祉協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> 個別支援 支え合いの地域づくり <ul style="list-style-type: none"> (1) 啓発、育成 27回、参加人数 644人 <ul style="list-style-type: none"> 自治区、団体等への福祉講話 自治区防災訓練での車いす等の体験 など (2) 多機関連携 2,284回 <ul style="list-style-type: none"> 消防・福祉・医療の合同研修参加 民生委員・児童委員地区協議会参加 豊田市地域自立支援協議会ブロック会議参加 など (3) 地域福祉活動団体 904回 <ul style="list-style-type: none"> 地区コミュニティ会議福祉部会長等情報交換会開催 ふれあいサービス事業情報交換会開催 地区コミュニティ会議福祉部定例会参加 など (4) 地域状況・地域資源把握 72回 <ul style="list-style-type: none"> 地域の状況や資源の把握実施 (5) 企画支援 124回 <ul style="list-style-type: none"> 協議体の開催 <ul style="list-style-type: none"> 美里地区における見守り隊（仮称）の結成 FAITH(フェイス)活用多世代交流食堂 岩倉東自治区のお助け隊立ち上げ支援 逢妻地区での誰もが活躍でき、助け合える仕組みづくり
	実数	延べ件数																																							
福祉センター	275	769																																							
上郷	248	886																																							
猿投	378	950																																							
高岡	413	1,438																																							
高橋・松平	430	1,279																																							
旭	307	1,731																																							
足助	433	3,040																																							
稲武	316	1,884																																							
小原	151	2,108																																							
下山	292	1,782																																							
藤岡	427	2,421																																							
評価																																									
順調																																									
考察																																									
<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響による収入減、就労機会の喪失に関する相談が未だ多くを占めるものの、昨年度比では落ち着きを取り戻している。（福祉センターと4出張所による令和2年度延べ件数 9,043 件⇒令和3年度延べ件数 5,322 件）その分、多機関や地域各団体との連携や会議参加、情報交換実施、研修会参加などの取組み件数が増加した。（令和2年度 1,775 件⇒令和3年度 2,284 件） 																																									

第2次地域福祉計画・地域福祉活動計画の実績について

特筆すべき事項（特徴的な事例など）	R4年度取組内容
<p>市福祉総合相談課、市支所地域振興担当事例</p> <ul style="list-style-type: none"> 旧市内支所に相談のあったケースのうち、支援困難なケース等は、庁内WEB会議システムを利用して、本庁の専門部署である福祉総合相談課にその場で繋ぎ、本庁の職員と直接相談し支援を実施。 旧市内支所に設置された「福祉の相談窓口」及び福祉総合相談課において、総合相談窓口として相談対応及び支援先につなげる包括的相談支援を実施。 新型コロナによる困窮対応が大半を占めており、社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカーの負担が増加している。 複雑化・複合化した困りごとについて、福祉部・子ども部・保健部・教育委員会など部局を超えて支援機関を招集し、支援検討を行う多機関協働体制を構築して支援を進めている。 これまで対応できなかった個別支援について、「とよた多世代参加支援プロジェクト」と協定を締結し、個人のニーズに沿った支援策の創出・提供するスキームを作り、自宅以外の居場所などを提供することができた。 <p>社会福祉協議会 CSW 事例</p> <p>●事例「話し合いから生まれた活躍の場づくり」 【対象】80代男性、妻と2人暮らし、要支援 【相談内容と経過】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センターより「デイサービスに週2日通っているが、あとの週5日は自宅で奥さんと過ごしているため、夫婦ゲンカをしてしまう。デイサービスに通っている以外の日に出掛ける場所がないか。」と相談がある。社協（CSW）、包括支援センター、高齢通所事業所にて活躍できる居場所づくりについてアイデア出しを行う。 検討の結果、病院内で営業している喫茶店が、様々な人が喫茶店の作業を通じて社会に参加できる取り組みを行っていることを知り、本人に提案。本人より希望があったため、ボランティアとして品出しや給仕の活動に参加をすることになり、新たな活躍の場を見つけることが出来た。 <p>●事例「不登校の姉弟の希望に沿った居場所に繋げた事例」 【対象】不登校：小学4年生（女）、小学2年生（男） 【相談内容と経過】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学4年生と小学2年生の子どもは、それぞれ小学1年生の時から不登校で家族以外との関わりがほとんどないため、両親より「家族以外の人と関わる機会が欲しい」と相談があった。 姉弟共通の楽しみの一つは親子でお菓子を作ることであった。 家族以外の人と交流する機会を増やすために、上郷出張所が立ち上げ支援を行なっている多世代交流食堂に参加を促した。 多世代交流食堂の参加者から調理方法を教えてもらうことや、興味のあるお菓子作りを担当することで、楽しんで家族以外の人と交流する機会が出来た。 参加後、家族内で次回を楽しみにする会話が出た。 姉弟が、調理を通じて家や学校以外の居場所が出来た。 <p>●事例「高齢者の地域資源への参加支援事例」 【対象】70代男性（一人暮らし） 【相談内容と経過】</p> <ul style="list-style-type: none"> 家計改善のため支援をしている対象者は、退職後、買い物以外で家から出る機会がなく、定期的に会う友人もいないため、一日の大半を自宅でテレビに向かい過ごす生活を送っており、徐々に足腰が弱くなっていた。 対象者は子ども好きで、近所で子どもに出会うと楽しそうに話す様子が見られたことから、自宅から歩いていける子どもの居場所へボランティアとして参加することを提案すると興味をもたれた。 そのため、子どもの居場所を行っている代表者に相談。対象者の参加を快く受け入れてもらうことができ、職員同伴のもと活動に参加した。 子どもたちと関わる事ができた対象者は楽しんだ様子であり、今後も行けるときに参加する意向を示された。 	<p>担当：市福祉総合相談課、市支所地域振興担当</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合相談体制、CSWの認知度向上 効果検証、課題整理 社協職員人材育成、内部研修会の実施 情報戦略課と協力し、民間企業との共同研究によるAI相談システムの運用、分析等【4月～】 重層的支援体制推進事業の推進 <p>担当：社会福祉協議会</p> <p>①個別支援 ②支え合いの地域づくり</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 啓発、育成 (2) 多機関連携 (3) 地域福祉活動団体 (4) 地域状況・地域資源把握 (5) 企画支援 <p>協議体の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティアグループ「（仮称）情報局」立ち上げ支援【新規】 神池地区における見守り隊（仮称）の結成【新規】 若園地区におけるボランティア活動の推進【新規】 法雲寺での多世代の居場所づくり【新規】 ジョイスティ利用者の社会参加の取り組み【新規】 梅ヶ丘学園の築山を活用した地域交流【新規】 美里地区における見守り隊（仮称）の結成【継続】 FAITH(フェイス)活用多世代交流食堂【継続】


第2次地域福祉計画・地域福祉活動計画の実績について

基本目標		基本的な考え方			担当課
1 地域の支え合いの仕組みづくり		2 包括的な相談支援体制の充実			市福祉総合相談課、市消防本部、市高齢福祉課、市障がい福祉課
重点取組	指標名	現状値（H31.3月末）	目標値	R3年度実績値	R3年度取組内容
多分野の連携によるネットワーク形成	多職種連携研修・会議の開催回数	12回		101回	<ul style="list-style-type: none"> 消防と福祉の合同研修 8回 多職種で自立支援を考える会 5ブロック 24回 高齢者・障がい者虐待対応合同研修 2回 障がい者虐待対応研修 1回 地域自立支援協議会実施のサポート連絡会 65回 在宅医療推進のための多職種合同研修会 1回
評価					
順調					
考察					
<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、中止にした研修もあったが、開催方法等を変更しながら、現状値以上の研修を開催することができた。 					
特筆すべき事項（特徴的な事例など）					R4年度取組内容
<ul style="list-style-type: none"> 「消防と福祉・医療の合同研修」について、市内の2次救急4病院（豊田厚生病院・足助病院・豊田地域医療センター・トヨタ記念病院）の医療ソーシャルワーカー、社会福祉協議会に所属するCSW、障がい者支援事業所の職員、地域包括支援センターの職員、市役所関係課職員等が参加した。各機関の専門職から、より横断的で多様な意見が活発に出され、諸問題に対する意識の共有と「顔の見える関係づくり」が進んだ。 「多職種で自立支援を考える会」について、新型コロナウイルスの影響を考慮し、集合開催とオンライン開催を交互に企画した。感染状況によって集合開催をオンライン開催に切り替えながら、予定どおり24回開催することができた。 「多職種で自立支援を考える会」から抽出された課題について、地域課題と政策課題に整理し、政策課題については、解決のための方策を行政が立案。地域課題については他事業と連携した形で地域での課題解決の仕組みを作るとともに、基幹包括支援センターで掌握して全体が俯瞰できる体制を活用。愛知県から派遣されたアドバイザーからは、改善を繰り返しながら事業実績を積み上げるとともに、上位会議への報告と政策への反映、そして事業間連携の仕組みを作ることに対して、好評価をいただいた。 高齢者・障がい者の垣根を超えた虐待対応の連携強化を図るため、「高齢者・障がい者虐待対応合同研修」を年2回開催した。普段関わることがない高齢者部門、障がい者部門が情報共有を図り、それぞれの立場の考え方を理解することで、今後の支援や連携につながるきっかけとなった。 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、対面での研修や会議が難しくなり、オンライン等に変更して開催した。オンラインに変更したことで、勤務先から研修会場まで遠い人やテレワークをしている人も参加することができた。（多職種合同研修会） 					<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症予防の観点から、集合研修から動画視聴方式に変更するなど、実施方法を検討しながらR4年度の取組を継続


第2次地域福祉計画・地域福祉活動計画の実績について

基本目標		基本的な考え方			担当課	
1 地域の支え合いの仕組みづくり		3 暮らしを支える環境整備			市障がい福祉課、市高齢福祉課	
重点取組	指標名	現状値 (H31.3月末)	目標値	R3年度実績値	R3年度取組内容	
コミュニケーション手段の利用促進	条例の制定	—	制定	制定 (R3.3)	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサル市役所とよた (UST) ガイドラインの運用・見直し ・職員の要配慮者への理解促進・学習会等の実施 ・意思疎通支援ツールの作成 ・市民・事業者向け体験講座等の実施 ・手話言語の獲得について学ぶ勉強会 ・高齢者の理解促進のための認知症サポーター養成講座の実施 	
評価						
達成						
考察						
<ul style="list-style-type: none"> ・条例制定後、相互理解と意思疎通に関する事業を推進することができた。 						
特筆すべき事項 (特徴的な事例など)					R4年度取組内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・条例の啓発のためのポスター、パンフレットを作成し、積極的に情報発信することができた。また、条例の内容を説明する動画を作成し、出前講座等の場で活用した。 (ポスター配布 396部、パンフレット配布 7736部) ・庁内関係各課と連携し、意思疎通に関するガイドラインの運用・見直しを実施した。 (ユニバーサル市役所「とよた」ガイドラインの改定) (11月) ガイドラインでは、障がいの特性や文化の違い等に配慮した文書の作成やイベント時の注意点等をまとめた。 ・市役所内において、簡単なあいさつ (おはようございます等) を手話で実施する、朝礼手話実施強化月間を設け、全庁的に実施した。(6月、12月) ・全庁の窓口に「筆談マーク」を設置 (令和3年12月) 全650枚、190以上の所属及び交流館等に配布 ・色覚障がいを意識したカラーユニバーサルデザイン研修を実施し、チラシ作成時等に注意すべき配色等を学んだ (12月) 参加者58名 ・特色のある学校づくり事業において浄水小学校3年生と連携し、聴覚障がい、視覚障がい、高齢者・認知症理解、国際理解の授業を実施した。 実施期間 令和3年7月 (計4日間) ・関係特別啓発を実施した。 					  	<ul style="list-style-type: none"> ・相互理解と意思疎通に関する事業の推進 ・高校生の自主提案による連携事業 (豊田高校) ・「WE LOVE とよた教育プログラム推進委員会」において、相互理解と意思疎通に関する条例に係る教育事業の検討 ・イベント時における条例の理解啓発
<ul style="list-style-type: none"> ○豊田市福祉センター (6月～10月) ※動画や関連パンフレットを掲示 		<ul style="list-style-type: none"> ○豊田中央図書館 (12月) ※図書館と連携し関連する本も掲示 				
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション支援ボード (コンビニ版) の作成 (株)セブンイレブンジャパンと連携し、コンビニで利用できるコミュニケーション支援ボード案を作成した。 ・手話言語獲得事業の第一人者である神奈川県聴覚障がい児等手話言語獲得 ・支援事業 (しゅわまる) 代表である早瀬憲太郎氏を招聘し、勉強会を実施した。 						

第2次地域福祉計画・地域福祉活動計画の実績について

基本目標		基本的な考え方			担当課	社会福祉協議会
1 地域の支え合いの仕組みづくり		3 暮らしを支える環境整備				
重点取組	指標名	現状値 (H31.3月末)	目標値	R3年度実績値	R3年度取組内容	
認知症高齢者、障がい者などの権利擁護の推進 成年後見制度	相談者数	273人		271人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区コミュニティ会議主催の研修会、地域ふれあいサロン等に出向き、成年後見制度やエンディングノートの講座を行った。(計13回) ・ 「権利擁護につなげるケースの目安」を作成。目安を用いた関係機関向け研修を2回開催した。 ・ 市民向け終活講座を、オンラインを活用したハイブリット方式で開催した。 ・ とよた市民後見人養成講座(第3期)を開催した。受講生10名全員が講座を修了し、このうち6名が市民後見人バンクに登録した。(バンク登録者累計は、令和3年度末時点で39名) ・ とよた市民後見人が新たに5名選任された(累計12名)。施設入所中で安定したケースを受任し、本人に寄り添ったきめ細かい支援を行っていただいている。 ・ 弁護士や司法書士による専門職相談会を開催した(19回)。 ・ 専門職(弁護士・司法書士・社会福祉士)交流会を開催し、身寄りのない方への支援に関する意見交換を行った。 ・ 身寄りのない市民等への支援策を検討するため、「身寄りのない方への支援のあり方検討部会」を設置した。 	
評価						
遅れ						
考察						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標未達成ではあるが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により相談者数が減少していた前年度(223件)と比較すると、約50件の相談増。将来のため制度について知っておきたいという相談が増えたのが要因と考えられる。 						
特筆すべき事項(特徴的な事例など)					R4年度取組内容	
<p>○【事例】「一人暮らしの認知症高齢者の女性が成年後見制度につながったケース」</p> <p>【相談内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域包括支援センターから、介護サービス拒否の認知症の一人暮らしの女性の相談が入る。女性は1年ほど前から徘徊により度々警察に保護されていた。また、頻りに銀行に行っては100万円単位のお金をおろそうとして、銀行から包括へ連絡が入っていた。 <p>【経過】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本人を訪問するが、ドア越しに「困っていない」と言われる日が続いた。しばらく訪問を重ね、ようやく家に入れてもらえるようになったが、家は不衛生な状態で、虫が大量に発生していた。介護サービスの利用を勧めたが、お金がかかるからと拒否。支援者が自宅をいっしょに掃除したり、銀行に同行してお金をおろす手伝いをする中で、本人に後見制度の説明をし、希望したため制度を利用することとなった。診断書の作成のため認知症初期集中支援チームが支援に入り、本人を受診に繋げた。また裁判所への申立書類の作成は、市内に住む本人の甥が行った。 ・ 地域包括支援センター主催の地域ケア個別会議では、自治区、民生委員、地域住民、地域の店舗、金融機関、警察署と情報を共有し、本人を見守る体制を整備した。 <p>【結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保佐人が選任されたが、本人は自分でやりたいという思いが強いため、保佐人は本人といっしょに銀行に行くようにしている。介護サービスの利用は変わらず拒否しているが、包括と保佐人が月に2回本人を訪問して困りごとがないか確認している。多くの地域の目に見守られながら、住み慣れた自宅での生活を続けている。 					<ul style="list-style-type: none"> ・ 後見センターのホームページを開設し、より多くの市民や関係機関への周知を図る。 ・ とよた市民後見人養成講座を休止し、過去3年間の取り組みを踏まえて広報方法やカリキュラムの見直しを行う。また、講座修了生の活躍の場の拡充を検討する。 ・ 弁護士や司法書士、社会福祉士との専門職交流会を昨年に引き続き開催。 ・ 「身寄りのない方への支援の在り方検討部会」を継続開催。 	

第2次地域福祉計画・地域福祉活動計画の実績について

基本目標		基本的な考え方			担当課	市福祉総合相談課
1 地域の支え合いの仕組みづくり		3 暮らしを支える環境整備				
重点取組	指標名	現状値 (H31.3月末)	目標値	R3年度実績値	R3年度取組内容	
避難行動要支援者対策の推進	支援モデル実施数(延べ)	—		4自治区	<ul style="list-style-type: none"> R2年度にモデル構築事業を実施した自治区への継続支援（中田、大島町、岩滝町、亀首町） 	
評価						
順調						
考察						
<ul style="list-style-type: none"> 新たに要支援者支援について取組みを計画している自治区への研修会や検討会を実施したことで、モデル自治区の支援体制の構築に繋げることができた。今後は他自治区にも横展開をしていく。 						
特筆すべき事項（特徴的な事例など）					R4年度取組内容	
<ul style="list-style-type: none"> 自立支援協議会等と連携し、自治区が主催するふれあいイベント等に福祉要素を取り込んだブースを出展し、地域住民に対して福祉の啓発に繋がった。 ICT技術を活用し、効率的かつ的確に平時及び災害時の要支援者支援を行うことを目的として、モデル構築事業実施自治区で実証実験を行った。 					<ul style="list-style-type: none"> 構築事業実施自治区への継続支援 モデル構築事業を踏まえた好事例の紹介 出前講座による要支援者対策の啓発 R5年度以降のモデル事例展開を見据えた事業の見直し検討 要支援者参加型の研修会及び訓練の実施方法検討 	

第2次地域福祉計画・地域福祉活動計画の実績について

基本目標		基本的な考え方			担当課	社会福祉協議会																		
1 地域の支え合いの仕組みづくり		3 暮らしを支える環境整備																						
重点取組	指標名	現状値 (H31.3月末)	目標値	R3年度実績値	R3年度取組内容																			
避難行動要支援者対策の推進	避難行動要支援者対策を取り入れた防災訓練回数	5回	➔	3回	<ul style="list-style-type: none"> 自治区防災訓練への参加 <table border="1"> <thead> <tr> <th>自治区名</th> <th>日にち</th> <th>内容</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土橋自治区 (清水団地)</td> <td>5月8日</td> <td>コミュニケーションボード、簡易担架体験</td> <td>30名程度</td> </tr> <tr> <td>中田自治区</td> <td>11月14日</td> <td>車いす体験</td> <td>30名程度</td> </tr> <tr> <td>亀首自治区</td> <td>12月5日</td> <td>車いす体験</td> <td>35名程度</td> </tr> </tbody> </table>				自治区名	日にち	内容	参加人数	土橋自治区 (清水団地)	5月8日	コミュニケーションボード、簡易担架体験	30名程度	中田自治区	11月14日	車いす体験	30名程度	亀首自治区	12月5日	車いす体験	35名程度
自治区名	日にち	内容	参加人数																					
土橋自治区 (清水団地)	5月8日	コミュニケーションボード、簡易担架体験	30名程度																					
中田自治区	11月14日	車いす体験	30名程度																					
亀首自治区	12月5日	車いす体験	35名程度																					
評価 遅れ																								
考察 <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大により、自治区での防災訓練が開催されず、依頼がなかった。 引き続き、自立支援協議会と協働で実施する。 																								
特筆すべき事項 (特徴的な事例など) <ul style="list-style-type: none"> 自立支援協議会等と連携し、自治区・自主防災会が主催する防災訓練等に避難行動要支援者対策を取り入れた体験の支援を行い、地域住民に対して福祉の啓発に繋がった。 					R4年度取組内容																			
 <p>避難行動要支援者対策を取り入れた 防災訓練 (車いす体験)</p>																								

第2次地域福祉計画・地域福祉活動計画の実績について

基本目標		基本的な考え方			担当課
2 地域福祉の担い手づくり		1 地域福祉に関わる人材の裾野拡大			社会福祉協議会、市高齢福祉課
重点取組	指標名	現状値 (H31.3月末)	目標値	R3年度実績値	R3年度取組内容
住民福祉教育の推進	福祉実践教室の交流プログラムの開催数	—	➔	40校 87回	担当：社会福祉協議会 <ul style="list-style-type: none"> 障がい理解のための実践教室の実施 障がい理解のための実践教室 講師連絡会の開催 講師と児童でのレクリエーションを実施（支所：1校）
評価					
順調					
考察					
<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けていたが、令和2年度の実績（31校 56回）より増加した。 複数科目や連続性のある内容を希望する学校が多かったことから、令和2年度と比較して実施回数の伸びが大きかった。 					
特筆すべき事項（特徴的な事例など）					
<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大を鑑み、開催期間を10月から（例年は6月から）に変更した。令和3年度は令和2年度開催期間同様に基本的な感染防止対策の徹底をすることで、コロナ禍前の期間（6月～2月）に戻して実施。 緊急事態宣言発令により、実施時期の変更や、実施を中止にする学校があった。（実施時期の変更：3校、実施中止：6校） 					
					
肢体不自由の理解（車いす体験）		視覚障がいの理解（盲導犬）		高齢者の理解（高齢者擬似体験）	
<ul style="list-style-type: none"> 藤岡地区の飯野小学校（6年生）から相談を受け、福祉実践教室の内容に加え、車いすユーザーの講師と児童とのレクリエーションを実施。 					
					
レクリエーション（風船バレー）					


第2次地域福祉計画・地域福祉活動計画の実績について

基本目標		基本的な考え方			担当課	社会福祉協議会
2 地域福祉の担い手づくり		1 地域福祉に関わる人材の裾野拡大				
重点取組	指標名	現状値 (H31.3月末)	目標値	R3年度実績値	R3年度取組内容	
住民福祉教育の推進	とよた市民福祉大学修了生の数(延べ)	183人		332人	<ul style="list-style-type: none"> 福祉入門コース 受講期間：6月～11月 講義回数：12回 修了者20人 家庭介護コース 受講期間：6月～9月 講義回数：8回 修了者33人 とよた市民福祉大学修了生のシンポジウム 日 時：12月25日(土) 午前10時～正午 場 所：豊田市福祉センター 4F 41会議室 内 容：①わくわく事業について 豊田市役所 地域支援課 担当長 梅村剛 氏 ②シンポジウム 事例報告1 大島町お助け隊 佐藤信夫 氏、近藤最 氏 事例報告2 美里あくてい部 岩佐伸雄 氏、福元光子 氏 コディネーター とよた市民福祉大学 運営委員長 山村史子 氏 街かふえアメリティ活動経緯 とよた市民福祉大学同窓会 会長 光野勝雄 氏 参加者：46名 	
評価						
順調						
考察						
<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、収容人数の制限(会場の収容率50に保つ内容)があったため、申込者から選考せざるを得なかった。 						
特筆すべき事項(特徴的な事例など)						
<ul style="list-style-type: none"> ●事例 <ul style="list-style-type: none"> 美里地区の8名の修了生が集まり、美里交流館を拠点としたボランティアグループ、美里あくてい部を結成。豊田でも高齢化率が年々高くなってきていたり、一人暮らし高齢者、高齢者世帯も増えている。そうした背景から美里あくてい部では、今年6月に美里地区住民を対象に「人生100年時代、元気で心豊かな生き方講座」を開催。講座では、地域で元気に暮らしている方々から健康状態を保っている秘訣を教えてください、健康寿命を延ばすことを目的に基調講演や脳トレを行う。 ●修了人数(福祉入門コース：182人、家庭介護コース：150人 計332人) 						
		福祉入門コース		家庭介護コース		
		期(年度)	修了人数	期(年度)	修了人数	
		1期(平成28年度)	47	1期 開講準備		 <p>修了生が企画した講座の様子(人生100年時代、元気で心豊かな生き方講座)</p>
		2期(平成29年度)	37	2期(平成29年度)	41	
		3期(平成30年度)	33	3期(平成30年度)	27	
		4期(令和元年度)	32	4期(令和元年度)	29	
		5期(令和2年度)	13	5期(令和2年度)	20	
		6期(令和3年度)	20	6期(令和3年度)	33	
●修了生の動向						
活動内容		人数	活動内容		人数	
民生委員児童委員		18	傾聴ボランティア		7	 <p>修了生が立ち上げた地域ふれあいサロンの様子</p>
主任児童委員		2	学校ボランティア		5	
地域会議委員		8	ヘルスサポートリーダー		4	
地区コミュニティ会議福祉部会		14	高齢者・介護施設従事者		4	
高齢者クラブ		2	ヘルパー		8	
地域ふれあいサロン		8	病院ボランティア		3	
子ども支援		6	ガイドヘルパー		2	
子どもの学習支援ボランティア		25	その他、ボランティア活動		31	
お助け隊		4	合計		151	
R4年度取組内容						
<ul style="list-style-type: none"> 福祉入門コース 定員数：30名 受講期間：6月～11月 講義回数：12回 家庭介護コース 定員数：30名 受講期間：6月～8月 講義回数：8回 とよた市民福祉大学修了生のシンポジウム 日 ち：10月1日(土) 場 所：豊田市福祉センター 定 員：200名 内 容：わくわく事業の説明、活動事例紹介など 認知症理解専門講座 日 ち：11月(4日間) 場 所：豊田市福祉センター 定 員：30名 内 容：認知症の方と接する時の心構え、認知症の予防について 						


第2次地域福祉計画・地域福祉活動計画の実績について

基本目標		基本的な考え方			担当課
2 地域福祉の担い手づくり		2 専門人材の確保・育成			市介護保険課、社会福祉協議会、市高齢福祉課
重点取組	指標名	現状値 (H31.3 月末)	目標値	R3 年度実績値	R3 年度取組内容
専門人材の確保・育成	担い手を確保するための取組の参加者総数 (延べ)	925 人		1,376 人	担当：市介護保険課、社会福祉協議会 <ul style="list-style-type: none"> 介護の仕事セミナー (2 回) 延べ 85 人 介護の仕事相談会 (1 回) 来場者 66 人 担当：市介護保険課 <ul style="list-style-type: none"> 高校での介護の仕事説明会 240 人 現任介護職員研修 6 回 157 人 キャリアアップ研修会 2 回、交流会 2 回 59 人 外国人人材の受入れ支援 5 人 日本語学習支援講座・国家試験対策講座 受講者数 20 人 外国人介護人材生活支援講座のオンライン開催 5 人 担当：市高齢福祉課 <ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センター職員向け研修 29 回 679 人 担当：社会福祉協議会 <ul style="list-style-type: none"> ヘルパートライ講座 12 人修了 介護職員初任者研修 18 人修了 (介護事業所への就職 6 人) 介護の業界団体も巻き込んだ専門人材の確保の実施 豊田市介護サービス機関連絡協議会の事務局として、部会活動による職種ごとのスキルアップや実務者研修 (30 名修了) の実施などを支援した。また、介護事業所が負担する研修受講料について調査 (77 事業者) し、介護保険関係研修受講料補助金の創出につなげた。介護支援専門員研修の在り方について、見直しの要望書の提出。
評価					
順調					
考察					
<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響はあったが、研修日の変更やオンラインを活用した実施に変更して予定研修を全て実施した。 					
特筆すべき事項 (特徴的な事例など)					
<ul style="list-style-type: none"> 【現任介護職員研修】オンラインによる動画視聴方式を初めて開催した (1 回)。毎回定員以上の応募があり、令和 3 年度の研修満足度平均は 4.0 (5 点満点) と好評である。 【キャリアアップ研修】集合研修のほかに、任意参加の Zoom 交流会を開催し (2 回)、各職場での具体的な課題に対する意見交換を行った。 日本語講座は、前年度までの EPA 介護福祉士候補者に加え、新たに技能実習生及び「特定技能 1 号」の外国人を対象とし、オンラインによる開催を導入した。 インドネシアバンドン市との連携では、渡航制限等により、年度内の受入れができなかったが、翌年度に受入れの決まった 2 名の調整を実施した。 国家試験対策講座を開催することで、外国人介護人材が介護福祉士資格を獲得した。合格者数 2 人 介護支援専門員向けのキャリアレベル確認シート (習得シート) を作成し、新任期における習得度合いの見える化につなげるとともに、その活用方法について研修会を実施することで、指導者側の人材育成の必要性と実用化に向けた取組につなげることができた。有志メンバーを中心に検討することで活用方法も含めて現場に即した内容となったことに加え、有識者の助言によって機運の醸成ともなり、全国でも珍しい先駆的な取組となった。 					
社会福祉協議会					
<ul style="list-style-type: none"> とよた市民福祉大学修了者がステップアップとして、初任者研修を受講でき、さらに就職を目指すにあたって、介護の仕事相談会でマッチングができるといった段階的な人材育成ができた。 介護支援専門員の更新研修について、名古屋市以外でも受講ができる環境改善について要望書を提出。令和 4 年度は豊田市内で更新研修の一部が開催されることになり、資格更新の負担軽減につながることを期待される。 豊田市介護サービス機関連絡協議会事務局として、介護事業所が負担する従業員の研修受講料について調査し、補助金が創出されたことで、資格を取得しやすい環境づくりにつなげた。 					
					
					初任者研修の様子
R4 年度取組内容					
担当：市介護保険課、社会福祉協議会 <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症予防の観点から、集合研修から動画視聴方式に変更するなど、実施方法を検討しながら R3 年度の取組を継続 担当：社会福祉協議会 <ul style="list-style-type: none"> 介護職員初任者研修を拡充し、市中心地と中山間地域で行うことで、全市的な専門人材の確保へ取り組む。 とよた市民福祉大学から初任者研修、就職フェアと段階を踏んだ道筋をつくることで、効果的な介護人材の育成と確保が行え、市内介護事業所の人材不足の解消につなげる。 介護の仕事相談会を 8 月にも行うことで、就職活動中の学生などに対象を当てた取組を実施。 					

第2次地域福祉計画・地域福祉活動計画の実績について

基本目標		基本的な考え方			担当課
2 地域福祉の担い手づくり		2 専門人材の確保・育成			市介護保険課、市総務監査課
重点取組	指標名	現状値（H31.3月末）	目標値	R3年度実績値	R3年度取組内容
事業所の体制強化	他の法人と共同で事業（研修など）を行っている法人数	44 法人		—	<ul style="list-style-type: none"> 先進技術の導入と生産性向上に関連する情報を周知・啓発 年2回（以下の内容を事業所へFAX送付、市ホームページ掲載） 介護ロボット活用事例集・愛知県介護ロボット等導入促進補助金・開発実証フィールドの募集・業務改善の手引き、ロボット活用ミーティング、介護ロボット全国フォーラム 介護の仕事相談会における介護ロボット展示 1回
評価					
※R4に実施予定の高齢者等実態調査で把握					
特筆すべき事項（特徴的な事例など）					R4年度取組内容
<ul style="list-style-type: none"> 介護の仕事相談会では、介護ロボットの展示を行い、事業所に周知啓発をすることができた。 愛知県の介護ロボット等導入促進補助金周知に加え、「生産性向上」をテーマにした厚生労働省主催のウェビナーについて周知を行い、各事業所の生産性向上におけるリテラシーの向上を図った。 					担当：市介護保険課、市総務監査課 <ul style="list-style-type: none"> 介護サービス機関連絡協議会によるホームヘルプ部会の発足 介護サービス機関連絡協議会との情報交換 マネジメント層へのキャリアアップ支援 コロナ禍におけるサービス提供継続のための事業所支援 社会福祉連携推進法人制度の活用に向けた情報の周知 豊田市介護サービス機関連絡協議会 <ul style="list-style-type: none"> 専門部会による同職種間の研修や意見交換

第2次地域福祉計画・地域福祉活動計画の実績について

基本目標		基本的な考え方			担当課
3 誰もがいつまでも活躍できる仕組みづくり		1 社会参加・就労につながる仕組みの構築			市次世代育成課、市教育委員会、市福祉総合相談課、社会福祉協議会
重点取組	指標名	現状値 (H31.3月末)	目標値	R3年度実績値	R3年度取組内容
活躍できる場の拡大	地域の多世代が交流できる居場所の総数	362 か所		369 か所	担当：市次世代育成課、市教育委員会 ・子どもの居場所づくり事業 37 か所（自治区型 13 か所、地域学校共働本体型 22 か所、その他 2 か所）、約 56,000 人 担当：市高齢福祉課 ・認知症カフェ 28 中学校区 担当：社会福祉協議会、市福祉総合相談課 ・子ども食堂 16 中学校区 28 か所 ・子ども食堂ネットワーク交流会：年 3 回開催 延べ 64 人参加 担当：社会福祉協議会 ① 地域ふれあいサロン ・276 か所 ・情報交換会：6 地区 延べ 100 人参加 ・ネタ相談会：年 1 回開催 延べ 30 人参加 ② 子どもの支援 ・子どもの支援ネットワーク交流会：年 1 回 18 団体、25 人参加 ③ お助け隊 ・お助け隊ネットワーク交流会：年 2 回開催 延べ 20 団体、30 人参加（再掲） ・お助け隊支援（定例会参加、情報提供、対象者のつなぎなど）73 回
評価					
順調					
考察					
<ul style="list-style-type: none"> 全体として、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止せざるを得ない状況であったが、実施方法を検討して活動場所を増加させることができた。 引き続き新型コロナウイルス感染症の影響はあるが、ネットワーク交流会・情報交換会で、コロナ禍の活動の工夫を共有するなどした結果、少しずつ活動を再開した団体が増えている。 					
特筆すべき事項（特徴的な事例など）					R4年度取組内容
<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響により、開催回数は全体的に減少している。 子ども食堂同士のコミュニケーションを図り、支え合う関係性の構築に向け、コロナ対策や保健衛生をテーマにした子ども食堂ネットワーク交流会を年 3 回実施した。このことにより、今までは行政に頼る部分があったが、横の連携が強まることで自主性が生まれ、それぞれの子ども食堂が主体的に取り組むようになった。 市が新型コロナウイルス感染症予防対策の上で配慮すべき事項として、「子ども食堂再開ガイドライン」を作成し周知した結果、約 9 割の子ども食堂が再開されている。 コロナ禍での新たな運営の形として、一緒に調理して食事をする従来型の子ども食堂に加え、子どもの見守りを兼ねて無料で食材等を配布するフードパントリーの取り組みが実施されている。 認知症カフェ交流会は、実際の現場の生の声や写真を用いながら当事者自身が語る「リレートーク形式」で行うことで、臨場感があふれ参加者に有益な情報を与える機会となった。 					担当：市福祉総合相談課、社会福祉協議会 ・子ども食堂の立上げ・運営支援 ・地域住民・関係機関・団体・企業等に対して子ども食堂等地域福祉活動についての理解・啓発活動の実施 ・子ども食堂ネットワーク交流会 ・とよたこども食堂ネットワークとの連携 担当：社会福祉協議会 ① 地域ふれあいサロン ・情報交換会 5 地区 ・ネタ相談会 年 2 回開催 ・福祉レクリエーション講習会 年 3 回開催 ② 子どもの支援 ・子どもの支援ネットワーク交流会 年 3 回開催 ③ お助け隊 ・お助け隊ネットワーク交流会（再掲） ・お助け隊の活動支援
社会福祉協議会 CSW 事例 「身体障がいがある高齢者の同行支援をお助け隊へつないだ事例」 【対象】身体障がいがある 70 代男性（車いす利用） 【相談内容と経過】 ・入院治療を経て退院後、自力で金融機関に行くことが出来なくなった。 助けてくれる親族はおらず、福祉事業所が見つからず、介護サービスとして金融機関まで同行支援を受けることが難しい状況。 ・社協からお助け隊へ近所の金融機関への移動補助をしていただくことを依頼し了承していただく。 ・お助け隊が年金受給日に本人の車いすを押して近隣金融機関へ同行、本人が ATM を操作し金銭の引き出しができるようになった。 ・お助け隊からは、「地域の困りごと解決の一助としてやりがいをもって関わることができた」と現在も支援が続いている。					

第2次地域福祉計画・地域福祉活動計画の実績について

特筆すべき事項（特徴的な事例など） 続き

社会福祉協議会小原支所

お助け隊立上支援

- ・小原地区で宅配業者のスタッフとして働いている方が、宅配で地区を回っていると、「家の草刈りや雑木の伐採などで困っている」という話を聞いていた事で、そんな困りごとを支援できないかとボランティアセンターへ相談に来所された。活動は、関わりのある小原地区を対象に実施したいとのこと。
- ・社協では、地域福祉に関する取り組みや在宅福祉サービスも行っており、困りごと（ニーズ）の把握はでき、そのニーズを紹介することができる旨伝え、まずは仲のいい仲間で立ち上げてみてはと助言。お助け隊グループを5名で立ち上げ、ボランティア登録をされた。
- ・四季桜などの景観保持を行うボランティアグループが、メンバーの高齢化などにより活動の継続が難しくなっていて、協力者の募集を支援していたので、立ち上がったお助け隊グループへ紹介。活動へと繋がった。



お助け隊の活動の様子

社会福祉協議会 高橋出張所

美里地区における見守り隊（仮称）の結成

- ・美里地区は令和3年7月現在、ほとんどの自治区で65歳以上の人口割合が25%を超えており、さらに障がいがある方、母子家庭など課題を抱えた世帯がいる。
- ・一方で、自身のボランティア活動を住んでいる地域で活かしたいという住民の意見がある。
- ・CSWは美里地区の区長会・民生児童委員協議会・高齢者クラブ連合会に対し地域における見守りの必要性について説明する。説明を受け、1つの自治区にて協議体（区長を含めた自治区住民4名、社協高橋出張所での話し合い）を実施。
- ・令和4年1月に活動員が責任を感じすぎないゆるい見守りを行う組織として「見守り活動・サポートの会」を発足。4月より活動を開始した。



見守り活動の検討の様子

社会福祉協議会 上郷出張所

FAITH(フェイス)活用多世代交流食堂

- ・CSWは、生活困窮者に対する支援や関係機関との情報交換を通じて、高齢者や障がい者、生活困窮者等が身近な地域に他者との交流や活躍できる居場所がほしいという希望を把握することが出来た。
- ・また障がい事業所「FAITH（フェイス）」より利用者の得意なことを活かし、地域住民の交流し集える居場所を作りたいとの希望を聞くことが出来た。
- ・そのため、福祉事業所や地域のボランティア等に集ってもらい、障がい事業所「FAITH」を拠点として、利用者（元料理人）が教え手となり居場所を求めている地域住民と一緒に食事作りを通して交流できる調理実習型の多世代食堂について検討を行う。
- ・その結果、多世代食堂を開催する。今後は、活動拡大に合わせて参加者も教え手側になり地域で活躍できる場を展開していく予定。



多世代食堂の検討の様子



多世代食堂の調理の様子

第2次地域福祉計画・地域福祉活動計画の実績について

基本目標		基本的な考え方			担当課
3 誰もがいつまでも活躍できる仕組みづくり		1 社会参加・就労につなげる仕組みの構築			市地域包括ケア企画課
重点取組	指標名	現状値（H31.3月末）	目標値	R3年度実績値	R3年度取組内容
働く機会の創出	連絡会の設置	—	設置	未設置	・ 既存の会議体を活用して就労に関する情報交換・課題共有を実施
評価					
遅れ					
考察					
<ul style="list-style-type: none"> 愛知県の委託事業として産業労働課が所管する「豊田市版中高年齢者活躍支援モデル事業」の事業の一部として設置した「ネットワーク会議」が、連絡会が想定していた目的や構成メンバーと類似していたことから、連絡会の設置は行わず、ネットワーク会議を活用して就労に関する情報交換・課題共有を行った。 					<ul style="list-style-type: none"> 連絡会の設置目的、構成メンバー等について関係課及び関係機関との調整を行う必要がある。

第2次地域福祉計画・地域福祉活動計画の実績について

基本目標		基本的な考え方			担当課
3 誰もがいつまでも活躍できる仕組みづくり		1 社会参加・就労につながる仕組みの構築			市福祉総合相談課、市高齢福祉課、市障がい福祉課、市産業労働課
重点取組	指標名	現状値（H31.3月末）	目標値	R3年度実績値	R3年度取組内容
働く機会の創出	福祉的な支援が必要な人を就労につながる新たな仕組みの構築	—	構築	構築	<ul style="list-style-type: none"> ・「とよた多世代参加支援プロジェクト」との協定締結し、対象者に合わせた個別サービス開発などの支援協力を依頼 <p>【高齢者の就労に関する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シルバー人材センターの入会促進、仕事のコーディネート機能の強化（入会説明会の多様化、相談・コーディネート機能の強化等） ・中高年齢者向け独自求人開拓のための事業所訪問（①中高年齢者の活用の現状把握・啓発・助言、②独自求人開拓、③交流会、見学会の参加企業の開拓）年間訪問件数 141 件 ・企業と中高年齢者の交流会（座談会）、企業見学会 ・ボランティアから就労まで幅広く対応する、セカンドライフ・セカンドキャリア相談、セミナー 週 1 回程度 <p>【障がい者の就労に関する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい福祉商品の置き菓子 BOX「オフィスきらり」の設置（74 か所） ・障がい者就労支援施設等と他事業とのマッチング（車部品の型作りや野菜カット等）
評価					
達成					
考察					
<ul style="list-style-type: none"> ・「とよた多世代参加支援プロジェクト」を新たに設立したことで、福祉的な支援が必要な人の就労や生きがい、居場所の提供等、対象者に合った支援の創出・提供の仕組みを構築することができた。 					
特筆すべき事項（特徴的な事例など）					R4年度取組内容
<ul style="list-style-type: none"> ・多世代参加支援プロジェクトと協議し、社会参加から就労自立までの一体的な支援を促進するための取組を共有した。 ・シルバー人材センターでは女性部会を立ち上げ、女性向けセミナーと入会説明会をあわせて実施した。 ・中高年齢者向け独自求人開拓のための事業所訪問については、コロナ禍の影響もあり、企業の求人提出意欲が低調傾向にある中、訪問した 141 社における、中高年齢者の雇用状況や採用意欲などの実態把握ができた。 ・中高年齢者側の就労意欲を見ると、「関心はあるが、積極的な求職活動を行うほど差し迫った状況にはない層」がボリュームゾーンと見られる（セミナーの参加は好調、個別相談や交流会の参加が低調、というのが現状）。 ・障がい者の就労に関して、大型イベント等が新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止になる中、民間（トヨタ自動車 EX 会等）や交流館のイベント等に出店し、お菓子の詰め合わせ等の販売が継続できた。 ・障がい福祉商品の置き菓子 BOX「オフィスきらり」の設置を拡大し、製品の販売向上とともに障がい者就労支援施設等の企業・市民への周知や新たな仕事創出に繋げた。（企業や交流館等のイベントや会議でのお菓子・粗品等） 					<ul style="list-style-type: none"> ・共同受注窓口等を通じた障がい者就労支援施設等と他事業とのマッチング ・多世代参加支援プロジェクトによる中間的就労の実践

第2次地域福祉計画・地域福祉活動計画の実績について

基本目標		基本的な考え方			担当課	社会福祉協議会
4 地域福祉を推進するための基盤づくり		1 福祉風土の醸成				
重点取組	指標名	現状値 (H31.3月末)	目標値	R3年度実績値	R3年度取組内容	
住民及び福祉に携わる団体、企業などの連携強化	—	—	—		社会福祉協議会 ①理事会、評議員会 <ul style="list-style-type: none"> 法人の理事、評議員の任期満了による一斉改選を契機として、より多くの市民の意見が集約できる団体に理事、評議員への参画を依頼できた。 業界団体、民間の社会福祉団体、再犯防止に係る団体など（豊田市特別養護老人ホーム施設長協議会、豊田市介護サービス機関連絡協議会、豊田市地域自立支援協議会、豊田少年補導委員会、豊田市ファミリー・サービス・クラブ、ボランティアセンター運営委員会）が新たに協議体のメンバーに加わり、幅広い意見が集約できた。（理事会4回+1回、評議員会3回開催） ②委員会の開催 <ul style="list-style-type: none"> 地域福祉活動推進委員会 年3回開催 ボランティアセンター運営委員会 年3回開催 ③ネットワーク（再掲） <ul style="list-style-type: none"> 中間支援組織連携のためのコア会議 4回 延べ62団体参加 子ども食堂ネットワーク交流会：年3回開催 延べ64人参加 お助け隊ネットワーク交流会：年2回開催 延べ20団体、30人参加 災害復興支援ボランティアネットワーク会議 1回 18団体参加 ④協議体の開催（再掲） <ul style="list-style-type: none"> 美里地区における見守り隊（仮称）の結成 FAITH(フェイス)活用多世代交流食堂 岩倉東自治区のお助け隊立ち上げ支援 逢妻地区での誰もが活躍でき、助け合える仕組みづくり ⑤豊田市介護サービス機関連絡協議会 <ul style="list-style-type: none"> 会員事業所間の情報共有や介護の専門人材の確保・育成に取り組んだ。 行政や社協が実施した「介護の仕事相談会」等に講師派遣やブース出展で協力した。 会員事業所の職員の資格取得状況の調査を行い、行政へ情報提供した。 	
評価						
考察						
<ul style="list-style-type: none"> 地域福祉活動の推進を担う社会福祉協議会は、地域の住民組織、公私の社会福祉及び保健・医療・教育などの関係者により構成され、多様な意見を集約しながら、法人事業を進めていく必要がある。 豊田市介護サービス機関連絡協議会は、市内唯一の介護の業界団体である。 様々な形態の経営母体が運営する介護事業所を会員とする豊田市介護サービス機関連絡協議会が、使命を全うできるようにするために、中立的な立場の社会福祉協議会が事務局を担う必要がある。 市内介護事業所の人材の不足等の課題解決に向けて、行政の支援とともに事業所同士の協力が欠かせない。 						

第2次地域福祉計画・地域福祉活動計画の実績について

特筆すべき事項（特徴的な事例など）	R4年度取組内容
<p>社会福祉協議会 挙母 CSW（福祉センター）</p> <p>逢妻地区での誰もが活躍でき、助け合える仕組みづくり（あいづまるごと be active）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターより「制度やサービスでは補うことの出来ない困りごとを抱えた高齢者が多い」との相談があった。 ・本会（CSW）より、障がい通所事業所、障がい相談支援事業所、高齢通所事業所、地域包括支援センターに声を掛け、福祉事業所に通う高齢者や障がい者の社会参加や生産活動として困り事の解決できる仕組みが出来ないか協議体を開催する。 ・協議体で検討の結果、自宅の庭の草取りを自身で行うことが難しい高齢者に対し、障がい福祉事業所利用者の方が社会参加・お仕事の1つとして草取りを行う。 ・その後も、協議体を継続し、福祉事業所に通う高齢者や障がい者の社会参加について検討を行い、企業や地域の方からいただいた未使用のタオルを利用し、障がい事業所利用者の方や介護事業所利用者の方、地域の高齢者の方が、雑巾にし地域の中学校へ寄付を行う。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>協議体の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>障がい福祉事業所利用者の社会参加（草取り）の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>介護事業所利用者の方々が雑巾を作成する様子</p> </div> </div>	<p>社会福祉協議会</p> <p>①理事会・評議員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民組織の代表、行政、業界団体、民間の社会福祉団体、再犯防止に係る団体など多様な協議体のメンバーによる地域福祉活動推進のための意見集約を行い、事業運営に活かす。（理事会4回、評議員会3回開催） <p>②委員会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉活動推進委員会開催 ・ボランティアセンター運営委員会開催 <p>③ネットワーク（再掲）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域単位で、若い年齢層も対象としたボランティア講演会・ボランティア情報交換会の実施 ・「中間支援組織連携のためのコア会議」の参加企業・団体の拡大 ・子どもの支援ネットワーク交流会・お助け隊ネットワーク交流会の開催 ・災害復興支援ボランティアネットワーク加盟団体との連携 <p>④協議体の開催（再掲）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアグループ「（仮称）情報局」立ち上げ支援【新規】 ・神池地区における見守り隊（仮称）の結成【新規】 ・若園地区におけるボランティア活動の推進【新規】 ・法雲寺での多世代の居場所づくり【新規】 ・ジョイスティ利用者の社会参加の取り組み【新規】 ・梅ヶ丘学園の築山を活用した地域交流【新規】 ・美里地区における見守り隊（仮称）の結成【継続】 ・FAITH(フェイス)活用多世代交流食堂【継続】 <p>⑤豊田市介護サービス機関連絡協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員事業所間の情報共有や介護の専門人材の確保・育成に取り組む。 ・会員事業所や従事する職員の職場環境の改善等の課題解決につながる調査を行い、行政へ情報提供する。